地域づくり・人づくり・町づくり
TAGAMI KOUMINKAN DAYORI

豊かな自然に囲まれて
穏やかな清流「浅の川」と、緑豊かな「角間」の里山に囲まれて。

たがみ 公民館だより

第101号
平成28年10月31日

編集・発刊　田上公民館広報視聴覚部
http://tagamihome.blog61.fc2.com/

「たがみ公民館だより」の充実に向けて

館長　関戸正彦

校下の皆さんに親しまれ地域の情報を届けてきました「たがみ公民館だより」は、本年4月10日の発行で記念すべき100号を届けることができ、広報紙のさらなる発展と充実に向け広報視聴覚部一同心新たにしています。また、現在、創刊号から100号までを、平成23年10月に発行しました「たがみ公民館30年誌」と併せて記念資料として編集するよう準備を進めています。

なお、100号記念の紙面には、田上校下28町会の町会長さんのご協力を頂き、漢字一字によります町会紹介を掲載させて頂き、市内各地から高い評価も頂いており、皆さんのご理解とご協力に心から感謝申し上げます。

さて、全戸配布しています公民館だよりは、地域の皆さんに公民館や地域の活動状況等をより理解していただくよう紙面づくりに工夫を凝らし、85号からは4色カラー版としてより親しめるよう作成させて頂いております。この公民館だよりは紙面での情報提供と併せ、平成22年からは、公民館と地域の情報、行事案内等をデジタルによります「ホームページ」も作成し提供、一部関係する活動等についてもフェイスブックを活用して情報の提供に努力しています。

時代は大きく変化しており、情報化と相まって公民館活動にも様々な課題が山積していますが、人づくり・地域づくり・町づくりは公民館の原点であり、新たな時代に対応していくためにも、原点を大切に学校と地域の新たな連携と協働の実現を求め、与えられた使命を全うするよう努力を傾注していきますので、地域の皆さんのご理解と温かいご協力、ご参加をお願い申し上げます。

石川県公民館大会

もちのき・かしわぎ学級 開級式

ふるさと歴史研究会

社会体育大会

社会体育大会

田上公民館社会体育大会開催

太陽が丘が優勝

5月22日日曜日は、田上小学校の運動場で田上公民館の社会体育大会です。地域住民の親睦を深める一大行事が毎年この時期に実施されています。今年も絶好の運動会日和で、私はカメラマンとして1日中運動場を駆け廻り（？）ました。

大会長、そして来賓の方々の挨拶の後、各町会から参加した大人から子供まで約1，200名の皆さんでラジオ体操で体をほぐし、いよいよ19種目の始まりです。

幼児から高齢者まで年齢を問わず参加できるプログラムが用意されています。最初は、小学生低学年の「二人で帰ろう」、続いてピンつり競争、パンくい競争（午前・午後）では様々な高さでぶら下げられたパンの袋に、上から下から上手にかじりつき笑顔でゴール。次は、町別の対抗種目

の宅配便競争です。段ボールの箱を背中に担ぎスリッパを足で放り上げて箱の中に入れるのですが、なかなか入らず難しそうでした。そして水くみ競争です。大人と子供が一升瓶の水が一杯になるまでリレーする競技で、走りながらなので、途中で水がこぼれ簡単には終わりません。選手のみんなが一所懸命協力している姿に応援する側にも力が入ります。ちびっこ玉入れや、すこやか玉入れはどちらも楽しく頑張っている姿が印象的でした。お昼の休憩をはさんで、午後の部に入り障害物競走などが行われました。中でも、親子そりレースは迫力満点で、親子が一体となってゴールを目指している様子は親子の絆の強さを感じさせるものでした。普段なかなか一緒に運動することのない親子にとって、一緒に頑張って笑って声を掛けあえる親子競技はとてもいいものだと思いました。

競技の最後は、大人の対抗リレーです。小学生の対抗リレーが終了時点で、田上新町・公町チームと太陽が丘チームが同点で並び田上町・田上の里・さくら並木チームが追いかけることになりました。入場した各選手がスタートラインに立った姿からは緊張感がひしひしと伝わってきました。町内一丸となりバトンをつないで走る姿は真剣そのもので、手に汗握る展開となり各町会応援団も力の限り応援しました。

結果はリレー1位の太陽が丘チームが優勝、
準優勝は田上町・田上の里・さくら並木チーム
3位は田上新町・公町チームとなりました。

参加していただきました各町会の皆様の協力により大会を無事終了することができました。

来年も、社会体育大会でいい汗を流しましょう。

「浅野川で魚とりをしよう」

青少年部長　田村　功

梅雨も明け、真夏の太陽照りつける7月30日、上田上橋下流付近で田上小、杜の里小の児童や保護者、約40名の参加により、魚や水中生物を捕まえて観察するこの「浅野川で魚とりをしよう」が行われました。

「やった！こんなでっけー魚とった！」

「なにこれ？気持ち悪いいきものつかまえた！」

「ぼくのカニのほうがでかい！」

普段立ち入れない浅野川に入る無邪気な子ども達と、童心に返り夢中で魚を追う大人達は「たも」と「箱めがね」を上手に使い、わずか小一時間でアユ、アブラハヤ、カジカゴリ、ヨシノボリ、モクズガニ、ヒル、ヤゴなどたくさんのいきものを捕まえることができ大興奮。それらはその場で水槽や観察ケースに入れ、石川県両生爬虫類研究会の石原一彦先生に詳しく丁寧に説明していただき、参加者は感心しきりでした。

平成17年から続けているこの観察会ですが、途中に平成２０年の集中豪雨による浅野川の氾濫被害により川底の様子が変わるなどの影響があったものの、毎年数多くの水中生物の棲息を確認でき、つくづく私たちの住むこの地域には浅野川という素晴らしい自然があることを再認識させられます。

なお、今回の参加者には、杜の里小学校のユスフさん親子（インドネシア）にも加わって頂き、日本語の不慣れもインドネシアからの留学生アンニサさんにも参加をお願いし母国語での会話と通訳をして頂きました。

子ども達の未来のためにもこの美しい川を守り、来年以降もこの楽しいイベントを続けていきたいと思います。